

「決済システムレポート」を公表（九月）

▼日本銀行は、九月十日に「決済システムレポート」を公表しました。「決済システムレポート」は、わが国の決済システムを巡る動きを概括するとともに、決済システムの安全性・効率性の改善に向けた日本銀行ならびに関係機関の取り組みを紹介することを目的として作成しています。

▼今回のレポートでは、前回レポートを公表した二〇一九年以降の決済システムを取り巻く環境変化を踏まえつつ、わが国の金融市場インフラ（FMI）の動向やFMIを巡る国際的な議論の動向、G20におけるク

スプーダー送金の改善に向けた検討、金融サービス分野の標準化、一般利用型の中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みを紹介した上で、「決済の未来」について論じています。

▼日本銀行では、わが国の決済システムが、伝統的な決済システムの利点を活かしつつ、新しい技術を上手に取り込み、全体としてより良い仕組みとなるように、決済サービスの提供、決済インフラのオーバーサイト、関係者の検討の触媒役などさまざまな面から取り組みを続けていきます。



「CBCDCフォーラム全体会合（第三回）」を開催（十月）

▼日本銀行は、中央銀行デジタル通貨（CBCDC）に関する「パイロット実験」を実施する中でCBCDCフォーラムを運営しています。同フォーラムでは、CBCDCの制度設計を適切に進める観点から、CBCDCのエコシステムを支える民間事業者の業務やシステム、CBCDC利用

者の本人確認・認証等や利用デバイス、他の民間マネーとの共存、将来的に活用され得る技術に関するテーマについて、複数のワーキンググループを立ち上げてリアルタイム決済に関わる民間事業者と議論・検討を進めています。

▼十月十七日、十八日にオンライン形式で開催した「CBCDCフォーラム全体会合（第三回）」では、CBCDCフォーラムでこれまで議論してきたテーマや今後議論していくテーマ、パイロット実験の中で別途実施している実験用システムの構築状況およびCBCDCに関する国内や海外主要国の取り組み等について日本銀行より説明し、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼日本銀行は引き続き、CBCDCフォーラムでの議論・検討を通じて得られる民間事業者の技術や知見を日本銀行における実証実験と制度設計面の検討に活かしていきたいと考えています。

▼本会合の議事概要やCBCDCフォーラムに関する最新情報

は、日本銀行ホームページをご覧ください。



貨幣博物館企画展「描かれた江戸の商人―販促ツールと商いの秘訣―」開催中

二〇二五年二月二日（日）まで

▼貨幣博物館のある江戸・日本橋をはじめ、都市では、古くより商人らによってさまざまな販売方法や流通の仕組みが編み出されてきました。そして、多様な宣伝方法により、人気のある店や商品に関する情報があふれ、日々活発な売買が繰り広げられていました。

▼本企画展では、江戸から明治時代にかけて活躍した商人に焦



白酒売り（棒手振）

編集後記

■今年も早いもので残り1週間となりました。今年は元日の能登半島での震災に始まり、内外で多くの自然災害に見舞われました。被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。海外では、ウクライナでの戦争や中東での紛争も続きました。来年こそは、世界の人々が安心して暮らせる一年になることを祈っております。

■「インタビュー」にご登場いただいたジャズピアニストの綾戸智恵さんには、その素敵な歌だけでなく、明るく前向きな生き方から、元気や勇気をもらっている方も少なくないと思います。今回は、綾戸さんの人生観とその背後にあるお母さんの存在について語っていただきました。インタビュー後に綾戸さんのコンサートに伺いましたが、まさにその人生観を体現したステージで、心から感動し元気をもらいました。

■「対談」では、プロゴルファーの宮里藍さんと中村審議委員が、苦しく辛い時期を乗り越えた経験を語られています。われわれはどうしても優勝や世界ランキング1位といった輝かしい面にばかり目を向けがちですが、その裏にある競技者の血のにじむような努力や葛藤、家族への想いなどを率直に語っていただいています。質問に対して真摯に心のこもった言葉を返される姿に、藍ちゃんファンの多さも納得です。もちろん、私もファンになりました！ (小牧)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(https://www.boj.or.jp)をご覧ください。

にちぎん 2024年冬号
編集・発行人 小牧義弘
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-1947



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載



楊枝屋の店先



引札

点をあて、貨幣博物館所蔵の浮世絵やすごろくなどの絵画資料

の中から商いの様子をご紹介します。また、当時使われていた商家の看板や、商人たちが販売スタイルに合わせて使い分けていた数々の道具類を初めて公開します。加えて、江戸時代に商売の販促ツールとして使われた出版物「引札(広告)」などもご紹介します。

【入館料】無料
【休館日】月曜日(ただし祝休日は開館)、年末年始(十二月二十九日～一月四日)
【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分(入館は午後四時まで)

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。

【所在地】東京都中央区日本橋本石町1-1-1

【お問い合わせ先】金融研究所

貨幣博物館

03-33377

13037

